

あざみ沢通信

第31号

H28年度第2号
長野県野沢北
高等学校
PTA広報委員会

ラストスパート

PTA会長 岡田美智明



明けましておめでとうございます。年も新たまり、気持ちも引き締まる思いです。子供たちも各々の目標に向けた歩みを更に進めたことと思います。

そして卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。また保護者の皆様おめでとうございます。この三年間を振り返ればさまざまなご苦労があったことと思います。それだけに卒業を迎える喜びはどれほどのものかとお察しいたします。

さてPTAの仕事は、八月二十五、二十六日の全国大会千葉大会が幕張メッセを主会場に行われ、校長先生・副会長と共に三人で参加しました。二日目の記念講演では女優の市原悦子さんの優しく説得力のある、独自の語り口に会場の全員が聞き入りました。

十月には、第二回学校評議員会があり、教室が手狭で、先生でも教室内の移動ができないことが学習に影響していることが考えられると申し上げました。

十一月には、PTA主催行事である「ジャザサイズ」がありました。私の予想よりも多くの参加があり、また日常的に行っている方が多いのにも驚きました。

さらに十二月は、三役会がありPTAは正副会長、学校

側は校長先生を始めPTA担当の先生方が出席し、来年度以降全学年が五クラスとなりますので、各支部・評議員の数等、今後の人数をどのようにしていくのかを議論しました。正式には評議員会に諮り、PTA総会で規約の改訂となります。

その後第三回の学校評議員会、PTA評議員会があり、卒業式、入学式とPTA総会まで、私もラストスパートで最大のヤマ場を乗り切っていきたいと思えます。会員の皆様も今後のPTA活動へのご協力、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

「究」

学校長 西沢 宏



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにとっての北高での三年間は、それぞれに、充実した日々だったと思いますが、これからの人生には、これまでの十八年間よりもっと波乱万丈で、しかも、わくわくするような毎日が待っていることでしょう。卒業は、決してゴールではなく、新たな第一歩を踏み出すスタートラインです。

ノーベル賞を受賞した大隅良典東工大名誉教授は、昨年暮れに、今年の漢字として「究」という文字を選んでおられました。七十一歳の世界的研究者がノーベル賞受賞の達成感をもって、「さわめた」という意味で選んだととれるのですが、私はむしろ、大隅教授にとっての真理探究の旅路は決してゴールに辿り着いたわけではなく、「究めの道半ばである」という意味であろうと思いました。江戸後期の浮世絵師葛飾北斎は、九十歳で亡くなる直前に、「天があと十年の間、いや、あと五年の間、命を保つことを私に

許されたならば、必ずやまさに本物といえる画工になり得たであろう」と言い残したそうです。彼が七十歳代半ばに描いた『富岳百景』の跋文（あとがき）には、「私が、七十歳までに描いたものは本当に取るに足らぬものばかりである」「しかし、九十歳ともなると興義を極め、百歳では神妙の域に達するであろう。そして、百歳を超えて描く一点は命を得たかのように生きたものとなる。長寿の神には、このような私の言葉が世迷い言ではないことをご覧いただきたいものだ。」とあるので、さきの臨終の言葉は真実味を帯びてきます。北斎が晩年に訪れた小布施に今も残る東町屋台天井絵や岩松院『八方睨み鳳凰図』を見れば、八十年代後半の老人の作とはとても思えない、あくなき創作への執念を感じることが出来ます。世界中の誰もが「極め人」と認めるような人が、実は、「まだ何も極めていない」という気持ちで探究し続けていたということに、私たちは学ばなければならないのではないのでしょうか。



平成28年度PTA行事

『ジャザサイズ』

今年度のPTA行事は、例年好評であった「ジャザサイズ」を行いました。11月19日、小体育館に講師の相米友紀先生をお迎えし、約50名の参加を得て、2時間ほど汗を流しました。



音楽に合わせて楽しく身体を動かすフィットネスプログラム、ジャザサイズ。今回も佐久市でフィットネスセンターを主催されている相米友紀先生（写真右端）に指導していただきました。



だまされたと思って…？ | 施設広報委員 塩澤 江都子

寒い寒い11月の土曜日のこと。

案の定、体育館の中は冷え冷え。集まったみなさんも寒そうです。そんな中、ジャザサイズが始まりました。

相米先生のわかり易いかけ声の通りに身体を動かしていくと（言われた通りには動きませんが…）「この筋肉が動くの久しぶり」「伸びて気持ちいい〜」「うっ、これは無理」という感じで、あっという間に終了の時間。見渡せば参加者みんなホカホカな顔で汗ばんでました。始めは「ジャザサイズってなんだろう？」と思ってましたが、実際にやってみるのが一番ですね。



体を鍛えるということ「ジャザサイズを通して」 | 教養委員長 大塚 政義

まだいくら肌寒い5月に委員長に選出された私は何が何だかわからないまま「ジャザサイズ」の扉を開きました。しかし、話しによると「例年大好評」、「参加者多し」と言うではありませんか。私の声で皆集まってくれるのか？と不安しかありませんでした。

他の委員の方々の協力も有り、当日準備も終え、参加者の皆様と小体育館で待っていると、どんどん人が集まってくるではありませんか、これが「大好評」の現実かと思ひ、そのまま開会式へ。いよいよジャザサイズ本番、私は小、中、高と野球に熱中してきたいわゆる「野球バカ」。体力はいささか自信は有るものの、もう今年46才。体の衰えはかくせない。

ジャザサイズも後半に差し掛り、筋トレ。日頃鍛えていない部分をいじめるインストラクター相米先生、かなりの猛者。日々の鍛錬を目の当たりにしました。高校時代どうしてもレギュラーに入りたく日々鍛錬していた頃を思い出します。年を重ね、体を鍛える事もしなくなった私を「覚醒」させてくれたイベント「ジャザサイズ」。何か心の中を「エクササイズ」された様な気がします。

私と同じ様に何らかの変化を感じた人も多かったのではないのでしょうか。何事にも「鍛える」という事は大切だと感じた一日でした。

最後に協力していただいた委員の方々、担当の先生方、相米先生をはじめとするインストラクターの方々、本当にありがとうございました。



体育祭 10月5・6日



どうでしたか？ 秋期体育祭

校内行事委員長 2年1組 平出莉佳

今年度は今まで春に開催していた体育祭を秋に開催しました。初めての試みなので正直、不安しかありませんでしたがたくさんの方々を支えてもらったおかげで何とか進行していくことができました。本当に感謝でいっぱいです。

全校の皆さんはどうでしたか？ 勝負事なので勝敗はついでですが楽しんでいただけましたでしょうか？ 三年生の皆さんにもいい息抜きとなっていただけでしたか？

この体育祭を通してクラスの絆も深まったはず!! ですね！ 来年度、更によりよい体育祭にするため、改善点がありましたら校内行事委員を通して委員長までお願いします。



理数科課題研究発表会

1/28

理数科課題研究の目的は、日常生活の中で疑問を感じる力をつけ、その疑問に対して、試行錯誤しながら解決を目指すことにあります。素朴な疑問を大切に、自由な発想で課題研究に取り組む時間は、理数科の皆さんにとって貴重な経験となっていると思います。そんな活動を第二十二回課題研究発表会として多くの方々に見ていただくことができました。貴重なご意見、ご感想をいただき感謝いたします。

(理数科主任 山下純一)

「究」

2年5組 油井麻純

先日、理数科の課題研究発表会が行われました。

九つのグループがそれぞれ、自分たちがこの日までしてきた研究の成果を自分たちの言葉で、堂々と発表しました。発表会の中で校長先生が、ノーベル賞を受賞した大隅教授にとつての二〇一六年の漢字「究」の話をしてくださいました。僕たちは今回の課題研「究」を通して、何を達成することができたのか、高校生の僕たちがどこまで追究し、探求し、極めることができたのか、そんなことを考えてしまいました。研究に終わりはないのかもしれないけれど、課題研究を通してその一端に触られたような気がします。



1 学年 学習合宿

白樺湖
11月9日～11日

学習・講演・発表

今年度の学習合宿は、今までの良い所を引き継ぎながらも「新しいこと」を取り入れようというコンセプトで計画をしました。

それにあたり参考にしたのが、国立教育政策研究所が提唱した「21世紀型能力」(基礎力・思考力・実践力)です。具体的には、数学科を中心とした質問部屋の常時設置等の学習環境の整備(基礎力の育成)、論理的思考力育成のための小論文講座(思考力の育成)、英語科を中心とした他教科連携のもとでのグループの発表活動(実践力の育成)を新たに取り入れました。普段と違う環境ということもあってか、多くの生徒が緊張感を持って学習に取り組んでいたと感じました。また、生徒の方からも「来年度もやりたい」という声が聞こえ、充実した活動であったことを再確認しました。

学年としても、引き続き「21世紀型能力」を育むことを意識していきたいと考えています。(2組担任 澤田浩文)

上田情報ビジネス専門学校
比田井和孝先生の講演
「心の授業」
本校の大先輩です。



普段と異なる環境で集中して
学習に取り組みました。



なんととっても楽しみは夕食。
バイキングはとておいしく、
おかげで三日間集中力が保て
ました。



最終日、各班工夫をこらし
てブックトークを行いました。



学習合宿

4組 細川若奏

「学習合宿」と聞いて良いイメージを持つ人は少ないのではないのでしょうか。私自身もそうでしたが、三日間の合宿を終えて帰ってきた時自分が持っていた悪いイメージが払拭されたことに気付きました。それは学習合宿がとても素晴らしく充実したものであったからです。

比田井先生のアツい「心の授業」では、巧みな話術で話に引き込まれていったのと同時に、勉強する際の姿勢や社会に出ていく上での大切な事を教わりました。多い日は九時間もあった勉強はとても疲れましたが、今までで一番集中でき、苦手な部分を克服することができました。このように全体的に実りの多い学習合宿でした。

ブックプレゼンテーション

5組 高橋美結

学習合宿の最終日に、ブックトークという班ごとのプレゼンが行われました。

私の班のテーマは「友情と恋愛」です。ただ友情と言っても様々な種類があるので、どんな友情をテーマにするかで時間をかけて班で話し合いをしました。その後、本を探したり、プレゼンの原稿を英訳したりするなどして、迎えた当日。もちろん緊張もしましたが、ほぼ万全な状態で臨めたので、楽しんでプレゼンができました。そして班で協力して進められたので、得た達成感も特別なものでした。

また、他の班ではトトロが登場したり、クイズ形式であったり、色々なプレゼンがあって、とても楽しい時間となりました。

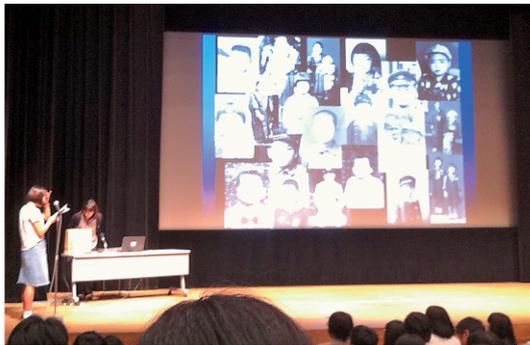
2 学年 修学旅行

沖繩
11月7日～10日

平和学習と民泊

『修学旅行でしか体験できないことを体験しよう』の方針で今年「民泊体験」を初めて取り入れました。民泊をすることを生徒へ知らせた当初は「知らない人の家に泊まること」や「人とうまく接すること」への不安が、生徒だけでなく保護者にも感じられていたことは否めません。しかし、実際に体験してみると、「家族とお話ができたこと」「料理を一緒に作れたこと」「三線を演奏したこと」などとても楽しい時間が過ごせたようです。なにより中城村の方々が全員優しく、温かく家庭へ迎え入れてくれた時間は生徒にとってはかけがえのないものとなりました。別れ際「また来たときはぜひ訪ねてね」と言われました。数年後プライベートで沖繩に行くときはぜひ会って「ただいま」と言いたいですね。（3組担任 清水竜也）

吉川由紀さん
(沖繩国際大学非常勤講師)
による平和講演会



中城村にて
民泊受け入れ家族のみなさんと



平和記念公園にて
平和セレモニー

民泊

1組 原瑠里子
二年生最大の行事、修学旅行で沖繩に行ってきた！
印象に残ったのは民泊。沖繩の普通の家庭に泊めてもらうのです。おうちの方を「お母さん」と呼び、食事の用意を手伝ったり、海岸で拾った貝やサンゴでフォトフレームを作ったり。中でもすごかったのは夕食です。タコライスとソーキそばがどーんと並び、もうお腹いっぱい。シークワーツジュースや珍しい果物（島バナナは半分くらいの大きさですつぱいんですよ）を頂きました。食生活だけでも随分長野とは違いました。

平和学習、沖繩の文化、奇麗な海、一生忘れられない三泊四日になりました。

修学旅行

4組 小林あみ

平和学習で一番印象に残ったのは壕です。中は懐中電灯がないと何も見えないくらい暗く、蒸し暑かったです。井戸には水が流れていて、その水は当時、壕にいた人たちの命を救った奇跡の水だといわれています。今の私達には考えられないような生活がそこにはありました。

野沢北高校にとって初めての民泊では、その家族の一員として過ごしました。沖縄料理を一緒につくったり、三線をしたり海岸に行ったりしました。民泊家庭のお父さん、お母さんには大変お世話になりました。笑いの絶えない貴重な時間を過ごすことができました。沖縄で過ごした四日間かけがえのない思い出です。

ご卒業おめでとう

●当たり前の日々…されど

3学年主任 小嶋千教

君たちが生を受けて十八年、この間多くの災害に見舞われてきた日本。東日本震災から六年、一年前の熊本地震は記憶に新しく、未だに被災された多くの方々が大変な思いをしながら生活をされています。また広く世界を見ると毎日のように内戦やテロが報道され、子どもを含めた多くの一般市民が被害に遭っています。新しい門出の前に、何故このような話しをと思われませんか。

おそらく君たちは当たり前のように毎日食べ、衣も住も不自由ない生活をし、そして見守り助けてくれる家族や友達がいつも周りにいたはずです。「教育」という点においても同様に、当たり前のように義務教育を受け高校に入学し、部活をやり普通に友達との会話を楽しめ、そして今当たり前のように大学進学を目指してきたと思います。しかし、これらがどれほど「当たり前なことではない」かを認識して欲しいのです。

世界では日々生きていくのが精一杯で勉強どころではない子どもたちが沢山います。そんな状況下でも命を救うため、世界平和のために「学びたい」という子どもたちもいます。そんな彼らに学ぶ機会が与えられれば貪欲です。それに比べ私たちはどうでしょう。自己のために「あれがほしい・これが欲しい」と思って生活をしているのではないのでしょうか。この欲求は「彼

らの学びの欲求」とは大きく異なるような気がします。あらためて自分がいかに恵まれた環境の中で生活をしてきたかを認識し、そして今「何を学ぶ」ために大学へ進学するのかをもう一度考え頑張つて欲しいと思います。

最後に、素晴らしい三年間をありがとう 君たちの今後の活躍を期待しています。

◆野沢北高校での三年間

1組 柳澤真衣

私の野沢北高校の第一印象はボロい、汚い、不便でした。水回りは汚い、一階の渡り廊下には壁がなくて風が吹き抜けている、おまけに応援練習……。

しかし、私の高校生活は良き友人に恵まれ充実した楽しい三年間となりました。自分に厳しく前向きな友、寛容で明るい友、ずるいことをしない誠実な友、そうした友人のおかげで私は以前より失敗を気にせず物事を前向きに捉えられるようになりました。修学旅行や日輪祭、体育祭などのイベントから日常の些細なことでの友との関わりが今の自分を作っていると思います。いつしか校舎のボロさには慣れ、不便な所は改善され、沢山の良き友人に恵まれ、今ではこの野沢北高校に入学したことをとても良かったと思っています。

最後にお世話になった先生方、友人、同じ班活動の仲間達、家族 三年間本当にありがとうございました。

◆再出発

2組 岩波彩乃

教室の窓から見える北高の正門。待ちに待った高校生活が始まることに浮き足立ちながら、そして少しの緊張と不安を胸に抱きながら、北高に入学した日が思い出される。あれから三年の月日が経ち、私たちは卒業する。あんなにも恋い焦がれていた高校生活が、正に矢の如く過ぎ去ってしまったことに驚いている。勉強や班活動、生徒会活動に追われた日々。決して楽ではなかった。自分なんて弱い人間なのだと悔しい思いも沢山した。しかし、仲間と共に立ち向かい乗り越えた今、振り返れば自分を成長させてくれた素晴らしい三年間だった。そしてそんな日々を北高で出会えた素敵な仲間達と過ごせたことを嬉しく思う。

これからは、それぞれが選んだ道に進んでいく。お別れと思うと寂しい気もするが、これは新しいスタートである。今まで支えてくれた家族、先生方、そして仲間達に感謝しつつ、この北高を旅立ちたいと思う。

◆悔いを残さないということ

3組 飯塚蒼汰

私は三年生としての一年間を、とにかく悔いを残さないように全力で楽しみ、駆け抜けてきた。私の高校生活の大部分を占めていた班活動のバスケットボールでは、最後の大会では満足のいくプレイができなかったが、それも毎日必死に練習してきた上での結果だったので思い残す事はない。

学校の行事は私に引退後の喪失感を感じさせる暇も与えなかった。文化祭が迫っており、私は準備から当日まで寝る間も惜しんで楽しんだ。前夜祭から四日間にはキャンプしたり友達の家を転々としながら学校でもそれ以外でも友達と過ごした。最高に楽しかった。

その後も芸術鑑賞会の日には友達とテニス、ボーリングに行き、今年から秋開催になった体育祭でも暴れまくり、行事があることに思いきり楽しんだ。受験で

大変な時期であるものの、私にとってこの一年間が後悔を感じる隙もないほど有意義な年となったのは間違いない。

◆あつという間だから

4組 新津雪乃

「高校生活はあつという間だから」中学校を卒業する時に周りの大人から言われた言葉だ。今三年間を振り返ってみても本当に早かったなあとと思う。それだけ充実していたと言えば格好良いが、毎日友達とおしゃべりしたり予習に追われていたらこんな時期になってしまったという方が合っている気がする。けれど思い浮かぶのは、そんな平凡な毎日ばかりだ。数学や古典の難解さに友達と悩んだり、班活でくだらない話で盛り上がりがあったり……。想像していた「落ち着いていて大人な」高校生活とは離れてしまったけれど、こんな高校生活も悪くないと思う。

最後になるが冒頭のあの言葉に大人たちはどんなメッセージを込めていたのだろうか。「勉強に励みなさい」とか「班活で悔いのないように」とか色々あるだろう。けれど「たくさん笑って過ごさなさい」だったら私は大人たちのアドバイス通りの高校生活を楽しんでいくことになるはずだ。

◆ひたに追いつく

5組 安藤菜乃香

「ひたに追いつく」とは野沢北高校校歌の一節であると共に、三年間通信の名前でもあります。「ひたすらに追い続ける」という意味だそうです。

私自身、この三年間は、勉強や班活動にひたすらに打ち込んできました。若干すさまじい風が流れ込む年季の入った教室で毎日机に向き合い、放課後は太陽の光をいっぱい浴びてテニスボールを追いました。我々が

ら本当に充実した日々を送っていたなあと驚嘆しています。また、多くの友と出会いました。時にはお互いぶつかり合い思い悩んだ時もあったけれど、成長し一生の友を得ることができました。

三年間のたくさんの思い出が詰まった野沢北高校を卒業するのはとても寂しいですが、私達にとってはここがゴールではなく、それぞれが新しい一歩を踏み出すスタートです。野沢北高卒業生としての誇りを胸に抱きながら、これからも自分自身の夢をひたすらに追いつけていきます。

◆あたりまえからの卒業…

6組 小河咲貴

今はもう「あたりまえ」になってしまった高校生活。この日常を手放さなければならぬことがとても寂しい。学校に行けば必ず会えた友達は簡単には会えなくなるし、なんだかんたんで困ったら助けてくれた先生に助けを求めることはできない。

きつと、四月から始まる今はまだ不安だらけの新生活は月日を重ねるごとにまたあたりまえになるのだろう。もしかしたら、ほんの一瞬だったこの三年間は思い出すこともなくなるのかもしれない。

それでも、もつと、この恵まれた「あたりまえ」にいたい、と思う。高校生活に後悔も未練も、まだ、友達とやりたかったことだってたくさんある。けれども、この「あたりまえ」からの卒業は、なりたいた自分への大きな前進になるはずだ。だから、また今までお世話になった友達に、先生に会った時に胸をはっていられるように不安を希望に、希望を現実にして生きていきたい。

■思い出

3学年PTA会長 中嶋直人

私は卒業式で保護者代表のあいさつをすることになっていますので、息子がお世話になったお礼はその時にしましょう。さて、息子が北高に入学することになった時、何だか懐かしい気持ちになりました。私もかつてこの学校に通っていたからです。ちなみに小嶋先生とは同窓。

いろいろ思い出しました。物理がチンプンカンプンで8点しかとれなかったとか。三年生の時、何日も無断欠席をして日輪祭に向けて洞源湖周辺を調べて回って親に怒られたとか、しょうもないことも今は懐かしい思い出です。

息子もそんな思い出ができたでしょう。もう卒業です。気がつけば私は定年目前、月日の流れるのは本当に早いものです。

■オンとオフ

卒業生保護者 木曾きく江

北高生だからこそ求められる「文武両道」。息子の高校三年間を振り返ると、野球をしている姿ばかりが思い浮かぶのですが、実は第一志望校合格を決めたのです。あのような野球漬けの生活の中で勉強と両立できたのは、切り替えが上手いという事かなと思っています。学校での授業と班活動に集中する為に、自宅ではとにかく睡眠時間を確保し、生活のリズムを崩さないよう心掛けていたようでした。それがオンとオフ。野球引退のその日、両親に感謝の気持ちを言葉にしてくれ、三人で涙した事を忘れません。その日を境に言葉数は減り一人もくもくと取り組んだ受験勉強。野沢北高校での誇れる三年間をこれからの人生の礎として下さい。

卒業おめでとう。



班活動の大会結果

今年度の秋以降に行われた、長野県大会以上の結果を中心に紹介します

運動班

◆陸上

<新人戦県大会>

(男子)
 坂根遼汰郎 100m、110H
 三浦央司 400m 8位、800m
 新津大地 1500m、5000m
 新海悠貴 400H
 油井麻純 3000m障害
 中川輝 走高跳、やり投
 内堀駿太郎 三段跳
 荻原慧 八種
 新海・坂根・三浦・内堀
 400R、1600R

(女子)

中村葵 200m、400H
 佐藤真由 400m、800m
 櫻井裕梨 走高跳 4位
 梅田佳奈 砲丸投 7位、やり投
 安藤あかり 七種
 中村・佐藤・安藤・櫻井
 400R、1600R

◆水泳

<新人戦県大会>

(男子)
 児玉侑祐 50m平泳ぎ 4位
 100m平泳ぎ 4位
 200m平泳ぎ 6位
 (女子)
 小林葵衣
 100mバタフライ 4位
 200mバタフライ 2位
 200m個人メドレー 1位

◆ソフトテニス

<新人戦県大会>

男子団体
 1回戦
 本校0-3 OIDE長姫B

男子個人

神津・澤、若林・大森、
 興良・栗林

<選抜県大会>

女子団体 ベスト16
 1回戦 本校3-0南安曇農業
 2回戦 本校1-2東海大諏訪
 女子個人 甘利・岡島

◆テニス

<新人テニス選手権>

男子シングルス
 東川由憲、藤巻達矢
 男子ダブルス
 東川・藤巻

◆バレーボール

<新人戦県大会>

(男子)
 1回戦 本校0-2大町岳陽

<選手権大会>

(男子)
 1回戦 本校0-2松商学園
 (女子)
 1回戦 本校0-2須坂東

◆バスケットボール

<新人戦県大会>

(男子) ベスト16
 本校62-51阿南
 本校56-59市立長野
 (女子) ベスト16
 本校55-50諏訪清陵
 本校65-78豊科

<選抜県大会>

(男子)
 本校58-81長野吉田
 (女子)
 1回戦 本校47-84松商学園

◆ハンドボール

<新人戦県大会>

(男子) ベスト8
 本校38-16岡谷南
 本校14-36長野南
 (女子) ベスト4
 本校15-24木曾青峰
 本校9-26長野南

<選抜県大会>

(女子) 3位
 本校14-32長野南
 本校13-20屋代
 本校16-9上田

◆バドミントン

<新人戦県大会>

男子団体
 本校2-3辰野
 男子シングルス
 磯部凌
 女子団体
 本校0-3市立長野
 女子シングルス
 湯浅ももな 2回戦進出

◆サッカー

<選手権大会>

本校1-5長野西

◆剣道

<新人戦県大会>

男子団体 出場
 男子個人 井出裕貴
 女子団体 2回戦進出
 女子個人 土屋萌笑

<選抜県大会>

女子団体 ベスト8

◆卓球

男子団体
 1回戦 本校0-3長野東
 男子シングルス 原田響
 女子シングルス 篠原真奈

◆弓道

<新人戦県大会>

男子団体 Bチーム 4位

◆スケート

<県総体>

佐藤真由 500m 14位
 1000m 15位
 友野遥 1500m 13位
 3000m 13位

<全国高校総体>

佐藤真由 500m 39位
 1000m 43位
 友野遥 1500m 35位
 3000m 26位

文化班

◆軽音楽

<長野県フェスティバル>

reache etc.
 (岩間・松岡・永松・須田)
 Dandelion
 (尾坂・佐々木・中田・中村)

◆英語

<ディベート県大会>

Aチーム 2勝3敗 22位
 Bチーム 1勝4敗 26位

◆音楽

<長野県合唱フェスティバル>

講師賞(1位)

◆吹奏楽

<アンサンブルコンテスト

県大会>

金管8重奏 銀賞

◆美術

<長野県高校美術展>

篠原みなみ 出品

◆棋道

<長野県将棋大会>

男子個人A級
 工藤祐作
 決勝トーナメント進出
 佐藤雅大
 決勝トーナメント進出

<長野県新人将棋選手権大会>

女子個人
 畠山理香子 3位

<全国高文連将棋新人大会>

畠山理香子 3勝2敗



編集後記

年を重ねるごとに、親子の会話がより高度に、より専門的になってきた事に、子どもの成長を感じます。親として教えられる事が少なくなってきました。一抹の淋しさを感じるものの、巣立ちの準備を控えた子どもの姿に頼もしさを感じます。

これも先生方の熱心な指導と、学校生活を快適に導いてくださった皆様のご協力に、感謝申し上げます。

この「あざみ沢通信」が、子ども達の学校生活の成果と成長を教えてくださいます。今後も目が離せません。生徒の皆さん！ お願いしたいことがあります。学業だけでなく友人と仲間と、この野沢北高生であったという「ツメアト」を残し巣立って行って下さい。いつまでも記憶に残る高校生活は、必ず人生を豊かにするものと信じております。

施設広報委員長 伊藤美鈴